

(様式3)

自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
.理念に基づく運営				
1.理念と共有				
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>市内の方を中心に利用していただき、またその方がなじめるよう、暮らしぶりなど情報を共有し、生活の中に取り入れている。それを含めた理念をつくっている。</p>	○	<p>地域の方々と触れ合いながら、利用者がなじみやすい雰囲気づくりを心掛けている。 (趣味や談話のできる場の提供)</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>日常生活において一人ひとりの状況の変化や情報を共有して、その方を知ることで細かいケアを行っている。</p>	○	<p>発言のない方にもゆっくりと住み慣れた所を思い出したりできるような雰囲気をつくり、より良い関わりを持っている。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>地域で暮らしていくことを掲げた理念を入居時に説明し日々の取り組みを家族会やお便りで報告し意見交換している。</p>	○	<p>行事には家族や地域の人々に協力を得ており、利用者も喜ばれている。アンケートや意見を参考にしたい。</p>
2.地域との支えあい				
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>隣近の方や外出先で出会った人々とあいさつを交わしている。利用者がスムーズに近隣の方を話せるよう援助している。</p>	○	<p>外を散歩したり、希望があれば同行しており近くの人たちが気軽にお茶を飲み立ち寄ってもらえるようになった。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の文化の集いなど趣味のある方は参加されている。なごやかの行事にはボランティア(踊り)に来ていただいている。</p>	○	<p>老人会、下宮木の行事に参加できるよう声かけし、利用者の活動を披露する場をつくりたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	○	<p>家族や利用者の想いや意見を参考にするが、地域高齢者が独立しないよう少しでもデイサービスに参加していただけるように声をかけている。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	○	<p>いろいろな職員が参加して具体的な内容を話し出して、地域の住民等の助言、アイデアをいただいている。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	○	<p>多くの関係者に興味を持ってもらい、少しずつであるが住民の参加が増えている。</p>
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	○	<p>長寿介護課、地域包括支援センターに度々訪問し、利用者の現状の空き情報、今後の取り組みを話している。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	○	<p>必要時、家族親戚、代表の方と制度について話し合い、必要な人があるのでその制度を活用している。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	○	<p>日頃より、家族と話をすることがあり、職員共に虐待はあってはならない。自分のことととらえようと考えている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約する時は、充分説明する。口頭や文章で説明し、話し合い納得してもらっている。	○	家族や利用者の立場を考え、契約の内容を十分説明して理解している。
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より利用者与会談する中で利用者の意見に耳を傾けたい。	○	利用者の想いを引き出せるように十分に彼らの話を傾斜し、関わっていききたい。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月一回利用者一人一人の生活状態等の報告書を送付している。又、管理可能な方には、財布を持ってもらっているが、その使用は報告する。	○	家族の立場に立った内容で便りを送るようにしている。又、不安を持たれることのないように担当や決まった人が連絡を取るようにしている。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年二回以上設け、積極的に意見や不安などを話し合う。又、他に家族に要望がある時、第三者に入ってもらおう。	○	家族が話しやすいように相談室で苦情等を聞き、納得のいかれるように対応し見直している。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を十分に聞き、皆で話をして決める姿勢が大切であると思う。	○	お互いに意見を交換、職員の提案、意見を聞き取り入れるよう努力している。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	家族の要望に答えるため、利用者の状態に合わせて人員配置を行う勤務体制を取っている。	○	勤務調整に日々努めている。 何らかの事情で遅れる時は、要望に柔軟に対応できるよう日勤をできる限りおくようになっている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の立場に立った職員交代を行っているが、急に体調の悪い職員が出た時、現状では時折移動がある。利用者には不安を与えないよう努力している。	○	代われる時は利用者のサマリを充分把握し個々の利用者の特徴をふまえて支援する。
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間を通じて様々な研修やセミナー、スクーリングに参加している。法人内では勉強会（人権擁護、虐待、身体拘束について）を行い、質の向上に努めている。	○	一人でも多く研修に参加出来るように勤務体制を考えている。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームの方々と情報交換を二か月に一度行っている。相談内容を事前に知らせ合う。（グループホーム連絡協議会）	○	他施設との交流により、なごやかにはない特徴を知り、参考にしていきたいことがたくさんある。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務状態により参加しにくいのが、フロア別に食事会などに参加しストレス解消に努めている。	○	食事会やその他の機会にも職員が全員参加出来るように努力している。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修の受講の推進や個々の意見を聞く体制を取り、各々の仕事に対する思いを聞く機会を設けている。	○	研修会、勉強会等の案内を配布する。希望者にはなるべく参加出来るように協力している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居時には必ず、家族や本人から希望されることを聞きだし、利用者さんの思いを充分取り入れた支援をするよう心掛けている。</p>	<p>○</p> <p>信頼関係を持つためには私たち介護人が相手の立場に立って、お話を傾聴し充分理解してあげたいと考える。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族の入居者の面接時には、職員が生活の様子を家族と話し合い、家族と本人の希望を取り入れている。</p>	<p>○</p> <p>派内sにくい相談事があれば、記載してもらするなど工夫している。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人や家族の訴えを聞きながら必要となっている事柄を話し合い、適したサービスについて情報を伝えている。</p>	<p>○</p> <p>多くの目で見て話し合っ、支援していきたい。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入所されるまでの生活状況を知り、利用者の方の想いの把握に努め安心して生活を送れる雰囲気づくりを心掛けている。</p>	<p>○</p> <p>必要に応じて、家族、利用者との相談して、利用者さんに合った支援を行い、雰囲気にすこしずつ馴染めるよう努力している。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日常において、利用者とは話をしたり、家事などを共に行っている中で、利用者さんから作り方を教えてもらうなど気づきがたくさんあり、お互いに助け合いながら生活を送っている。</p>	<p>○</p> <p>利用者一人一人が活躍できる場を作れるよう職員がひきだしてあげるよう日々努力している。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 利用者と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	利用者の誕生会には家族等に連絡し参加いただき共に祝っている。又、受信にもできるだけ付添をお願いしている。	○	一緒に過ごせる機会をできる限り増やせるよう努力している。
29 利用者との家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	細かいことでも連絡を取り合い、利用者に興味を持ってもらえるよう日々暮らしを伝えるようにしている。	○	利用者との家族の思いをしっかりと受け止めていきたい。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知り合いの方等の子坊があれば、来てもらっている。	○	久しぶりに会うことでお互いが不快にならないように職員が見守っていくようにしたい。
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	台所での盛り付け、洗い場の手伝い等一緒に協力してもらっている。	○	職員は見守り、声かけをさりげなく行っている。
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	いつもアットホームな付き合い、心配りを大切にしている。	○	必要とされれば一緒にかかわっていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一人一人の希望と想いを尋ねてケアプランをつくり、日常に生活にそれを取り入れるよう努め訴えのできない方にはその方のペースにあわせ、その中から希望等を取り入れている。</p>	<p>○</p> <p>意思の伝えにくい人には、職員全員や家族の方の意見も取り入れ、検討していく。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>家族、本人から今までの生活歴などを聞きいれ、ケアカンファレンスを開き、ケアプランを作成しプランに沿ってケアを行っている。</p>	<p>○</p> <p>新しい情報があれば共有して細かなことでも家族や利用者からの話をきいて活かしていきたい。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>様子観察をしながら、その人に合ったケアに取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>職員はいろいろな職種の方も参加して話し合い、ケアプランに活かしている。</p>
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケアカンファレンスには関わっている職員が参加し、利用者の立場に立って考えるよう努力すると共に家族やその関係者とも話し合いをして意見を取り入れながらケアプランを作成している。</p>	<p>○</p> <p>家族へ報告をする時、家族から意見・要望があれば、面会、他の方法でも聞ける機会を設けています。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>状況の変化があれば、即ケアカンファレンスをひらいて介護の見直しを行い、利用者、家族等に相談、介護計画の変更を行う。</p>	<p>○</p> <p>家族と連絡を密にとり計画を新しくするのを早めに取り掛かり、じっくりと話し合うよう努力している。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個人記録を記入し、変化があればケアカンファレンスを行い、ケアプランの作成を行っている。</p>	○	<p>関係職員の全員が意見を述べられるよう取り組んでいる。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>デイサービス等を利用している人で具合が悪かったり、家族がどうしても見れない時にグループホームで休んでもらい職員が対応することもある。</p>	○	<p>多機能性を活かせるよう職員を確保していきたいが今現在でも難しい現状である。</p>
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>月二回のあったか相談員の訪問と民生委員さんによるボランティアや市民ホールでの観劇の参加など、利用者や家族の必要性に応じ支援している。</p>	○	<p>地域の小学生のボランティアをうけて、一歩前進（共に支え合い）</p>
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>入居、退去時や訪問調査、見学などには話し合いながら協力し合っている。</p>		
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>協働はあまり出来ていないと感じる。家族の意向があり必要であれば関わっていききたい。</p>	○	<p>今後、地域包括支援センターとできる限り関わっていききたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回、主治医の往診を受けている。緊急な時でも対応してもらえ家族にも安心してもらえるよう配慮している。	○	利用者の要望を受けて職員は家族と連絡を取り、医療を適切に受けられるよう配慮している。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	神経内科医連携を保ちいつでも相談できる体制ができています。	○	分からないことがあればノートに記しながら相談や利用者の情報を共有しながら関わっている。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	心身の変化や異常発生時に看護師や協力医院に相談できるよう確保している。協力医院には月二回往診していただき利用者の健康管理に充分配慮するようにしている。	○	利用者が安心できるような声かけや対応を心掛けている。細かなことでも報告していく。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	家族と共にホームが医療機関と早期から退院計画を作り方を相談。家族の希望を聞き、又入院先の病院と相談を行っている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日頃から協力医院との密接な関係を取り、できる限り早いうちから利用者、家族等と相談、協力医の指示と共に全職員で方針を共有する。	○	職員が方針をしっかり把握し一丸となって取り組めるよう話し合う機会を設けていくよう努力している。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	日頃より家族と話す機会を持ち、今後のおおまかな話をしている。	○	準備や検討しなければならないことをあげ、話し合い、職員も把握していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>家族の都合による場合でも本人が住みやすい環境となるよう関係者間で話し合っている。</p>	○	<p>利用者の想いを把握しながら、ケアの関係者と十分な話し合いを行い住み替わることによる本人の気持ちを大事に支援している。</p>
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1.その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>人権擁護について皆と議論をして、意識を確認している。</p>	○	<p>職員が徹底して統一したケアが出来るよう具体的な内容について議論していきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>ゆっくり話をしやすいような雰囲気を作って、利用者の思いを受け止めている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一日の過ごし方は決まっていない。 何をしたいか尋ねたり、レクリエーションなど楽しい雰囲気をつくれるようにしている。</p>	○	<p>自分で訴えることが難しい方には特に係わって時には静かに寄り添っている。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>月一回訪問美容に来てもらい好みの髪型にしてもらっている。又、家族の協力を得て行きつけの美容室を利用する方もいる。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	<p>バイキング、誕生会等の継続、又、利用者の好みを活かしたメニューを週二回提供できるよう努めている。同じものを食べている。</p>
55	<p>利用者の嗜好の支援</p> <p>利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○	<p>安全に食べてもらえるよう管理しながら相談したべてもらっている。</p>
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	○	<p>個々の素振りをつかんで排せつ介助をしたい。</p>
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	○	<p>家族との外出への働きかけもしたい。</p>


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の可能な方に財布を持ってもらい、無理な方でも買い物の際、お金を渡し、安心感を持って自分で支払が出来るよう支援している。		
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員が1対1で安全に係れるときには声をかけ合い、他のフロアや畑に行ったり、又、買い物などを予定し支援している。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者が生きたい所を把握している。地域への参加、特別な催しなどに参加している。	○	家族出掛けたくても協力が得にくい場合もあるが機会を持てるよう支援している。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の穏やかな様子の時には家族と事前に連絡を取り、電話などのやりとりが可能であるか確認した上で支援している。	○	状況によっては、興奮されることもあるので、職員が独断で連絡を取らないようにしている。
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族面会時には日々の状況を報告し入居者とゆったりと過ごしてもらっています。	○	出きる限り多くに人に来てもらえるよう支援している。
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全確保のために緊急をやむを得ない状態で身体拘束をする時は方法、時間等を詳細に家族へ報告し同意を得ている。	○	拘束はせずにその人らしい生活をことについての方法を皆で考え常に見守っている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外へ行きそうな雰囲気を感じたら止めるのではなく、一緒に連れて行くなど安全に配慮し自由な暮らしを考えるようにしている。		
67 利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	就業時には必ず巡回と利用者の様子観察、夜間の巡視を行い安心して生活をしていただけるよう配慮している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	模様替えをする際には、利用者が立ったり支えたりするのにタンスを使うなど必要な物を把握して利用者と職員が相談して行っている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が発生した時は即適切な対応し、後で報告書を作成し、会議を持ち事故防止に繋げる。最新の注意を払うよう伝えている。	○	危機意識の確認。 個人の特性の把握の徹底。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時マニュアルを作成しており、分かりやすい所に貼り付けている。心肺蘇生やAEDについて訓練や学習をしている。	○	緊急対応がスムーズに行えるための研修、カンファレンスの継続。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害に対して防災マニュアルを作成している。消火器、スプリンクラー等の知識も防災訓練や点検の際に改めて学んでいる。	○	災害における備蓄をしたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	○	<p>家族と共に医師などにも相談して少しでもリスクを取り除けるよう対応している。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	○	<p>予防として脱水にならないように、飲みやすいものを提供して声かけに力を入れている。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザに関して家族の同意を得て利用者に予防接種を受けていただいている。その他感染症については知識を得て手洗い、うがいを励行している。	○	家族にも説明をして入室の時には手洗い、必要であればマスクを着用していただき予防に努めている。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	週三回買い出しをして出来るだけ新鮮な食材を使用している。調理前には手洗いをして調理器具は使用後必ず消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には季節の色とりどりに花を植えている。分かりやすいように大きな看板を掲げている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングではゆっくりとした生活の流れが保てるよう声かけのタイミングや声の大きさ、ライト、温度の調整に配慮している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事時間が遅れる人に対して別のテーブルでたべてもらうよう声かけをしたり淋しくならぬよう見守る。一人一人の身になって見守っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビング、食堂は共有スペースであるが、居室は全個室である。必要なものは利用者と相談し家族に依頼をして模様替えを自由にしてもらっている。</p>	○	<p>寂しそうにされている時は様子を見ながら声かけをして、リビングへ誘っている。</p>
<p>84</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>各部屋には温度計を設置しています。職員が利用者に合わせて温度調節をしています。</p>	○	<p>利用者にたずねたり様子を観察している。</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>85</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>日常生活の中で一人一人の残存機能を活かし、掃除、洗濯、調理の手伝いなどをしていただいている。入居者が出来ない部分が職員が援助している。</p>	○	<p>利用者一人一人の好むもの、出来ることを把握している。声かけをして、してもらっている。トラブルになる時は職員が介入して早めに対応する。</p>
<p>86</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>利用者の行動を把握し、それを活かして工夫している。</p>	○	<p>トイレのある所に分かりやすく書くなど工夫している。</p>
<p>87</p> <p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんで、活動できるように活かしている</p>	<p>菜園などを行っている。危険のないよう職員と一緒にやっている。畑の話題も上がっている。</p>	○	<p>利用者が興味を持てるような安全な方法を考えていきたい。</p>

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・施設の畑なのですが、苗、野菜等植えたり、水やり、草引き等。
季節を感じとる事、野菜が出来た事の喜びを味わう事が出来る。
- ・土と携わる事はお年寄りにとって前向きな気分になり良い事だとおもいます。